

## 環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

007	キャノン中央研究所建設事業	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
総括事項	<p>計画地は厚木市の中心から西方へ約5kmの、丹沢山系が相模平野に接する丘陵地に、住宅・都市整備公団が造成を進めている「森の里」の一角にある。</p> <p>この「森の里」は、すでに造成が完了し、住宅地区、研究所、大学等の施設用地、公園、緑地等によって構成され、道路、上下水道などの施設も整備されており、本研究所の設置により新たに自然の地形が改変されることはほとんど予定されていない。</p> <p>しかし、研究所では、研究の過程で有害な物質が使用されることから、使用済みの有害廃棄物の保管中の取扱や排水中への流出等による周辺への影響、建設工事中の交通安全の確保及び計画地に接している高松山ハイキングコース並びに「春の路」への配慮等が必要とされる。</p> <p>さらに、研究内容が科学技術の進歩により変化し、環境に与える影響も変化することが考えられるため、将来にわたり、状況に応じて適切に対応し、環境問題を発生させないよう配慮する必要がある。</p>	<p>研究所の建設に当たっては、敷地南側の自然緑地は現況のまま保存するほか、地形地質の改変も最小限にとどめている。</p> <p>新研究所の供用後において、使用を予定している有害物質を除去するための排水処理装置及び排ガス処理装置については、処理能力及び性能に十分な余裕を持たせている。</p> <p>半導体研究に用いる特殊材料ガスの除害対策については、未だ法規制が定められていないが、信頼できる米国産業衛生監督者会議の定める許容濃度に処理するように特殊ガス処理装置を設置し対処する計画である。</p> <p>研究内容及び使用薬品の種類については、当面大幅な変更はないと考えているが、今後の科学技術の進歩等による研究内容の変化に応じ、公害防止計画を見直すとともに、処理系統等の改善を迅速に行う等、将来にわたり環境問題を発生させないよう努力する。</p>
廃棄物	<p>研究活動に伴い、多種多様な廃棄物の発生が考えられるが、特に有害な物質を含む廃棄物については、研究過程から排出される際に性状に応じて分別、保管をするなど、適切な管理が行えるよう配慮すること。</p>	<p>有害物質のクロム、シアン等は、種類ごとに専用容器を指定し、分別収集する。廃棄物置場内では適切に保管し、容器ごとに処理業者に委託する。</p>
動物・植物・景観・レクリエーション資源	<p>事業予定地の南側にある自然緑地は、多様な植生で構成され、市民のレクリエーションの場となっている高松山に近く、またハイキングコース及び緑道「春の路」からの景観とも大きく係わりをもつため、将来にわたり良好な自然が維持されるよう配慮すること。</p> <p>また、事業予定地の北側の敷地境界沿いに予定している環境保全林は、地域のレクリエーションの場である緑道「春の路」に接するため、この緑と一体としてレクリエーション等の効果が高められるよう、植栽の方法等について関係事業者間で十分調整を行うこと。</p>	<p>ハイキングコース及び「春の路」からの景観上、重要であることを十分認識し、自然緑地は現況のまま保存する計画である。</p> <p>更に自然緑地及び環境保全林などの緑地保全を目的として、都市緑地保全法に基づく緑地協定を締結する予定である。</p> <p>計画地北側の敷地境界沿いには、ツツジ、ウツギ等花の美しい花木のマウンド植栽を行い、季節感に配慮した計画とする。</p>